

伊里金山跡 調査報告書

丸谷憲二

1 はじめに

備前市伊里公民館での平成 22 年 6 月 19 日の講演にて、「伊里の素晴らしさを再確認しませんか。伊里の皆様への質問です」として、「伊里金山は何処にあったのですか」と質問しました。しかし、参加者から回答はありませんでした。

岡山県立図書館での文献調査では、岡山県の「金山」は伊里・日笠・和意谷(吉永)・大平(三石)・日ノ出(野谷)・吉岡(吹矢)の 6 箇所である。平成 24 年 2 月 11 日に片山伸栄氏(備前市観光ボランティアガイド協会)の友人の案内で、伊里金山跡を本松一郎氏と 3 人で訪問した。伊里金山跡の所在地は天神社(備前市木谷 8)の裏山(東観音寺山)頂上近くである

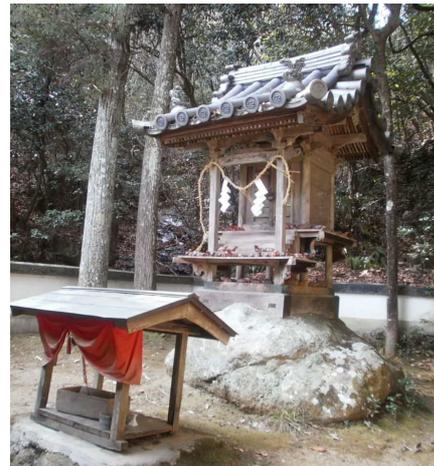
2 伊里金山

2.1 天神社

天神社は村社、岡山県神社庁では由緒祭神不明とされている。天神社に流れる細谷川に沿って山頂へ上ると 3 つの坑道があった。かなり急な獣道である。



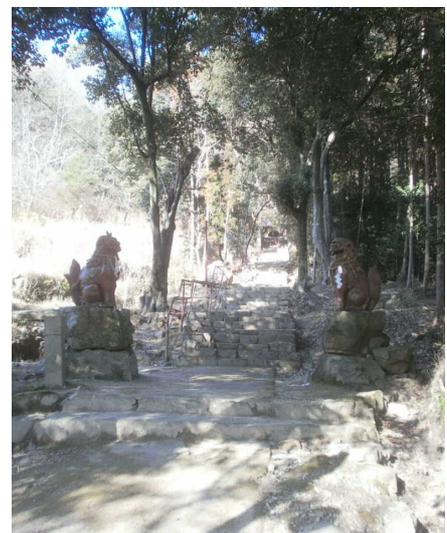
天神社



牛神様



細谷川



2.2 伊里金山

東観音寺山頂上近くに3箇所の坑道があった。伊里金山は45年程前迄は採掘されていた。トン当たりの金の含有率は、20g/1t程度との説明であった。

倉敷市立自然史博物館 武智泰史先生の教示

鉱石の品位（トン当たりの金の含有率。金や銀の鉱石の品位は%ではなく、g/tで表現されます）。金の埋蔵量は、鉱石の量（t）×鉱石の品位（g/t）で計算されます。





採掘した鉱石の選別場所、鉱石が山になっていた。この近くにも 2 箇所の坑道がある。

2.3 鉱石の分析

坑道近くと選別場所で鉱石を採取した。坑道近くは粘土質である。

倉敷市立自然史博物館 武智泰史先生の教示

流紋岩の割れ目に石英が入っている。白い粘土は熱水 200~300℃の影響である。岩石が白っぽい粘土に変質している。元は流紋岩である。目で見れる大きさでは金は見えない。



3 まとめ

- ① 岡山県の「金銀山」は、伊里と日笠・和意谷(吉永)・大平(三石)・日ノ出(野谷)・吉岡(吹矢)の 6 箇所である。現在、岡山県には稼働中の金・銀山は無い。
- ② 昭和 48 年『和気郡誌全』に「金山銀山 熊山村大字弓削字金山にあり、天保八年の発見に係り、爾後三カ年にして廃業せり」とある。
- ③ 金山探査条件の一つ石英を発見した。石英脈から金鉱石が採取される。石英脈は白色の石英を主とし少量の黄鉄鉱を伴い金を含んでいる。
- ④ 伊里金山は 45 年程前迄は採掘されていた。作業員は 10 人程度であり、トロッコで運搬していた。
- ⑤ 金埋蔵量 20g/1t 程度との説明であった。
- ⑥ 現在、日本には鹿児島県伊佐市にある菱刈鉱山以外に金山は無い。(2004 年度末で国

の広域探査事業は打ち切られている)。

- ⑦ 『岡山の鉱物』に沼野忠之氏は、自然金として日笠、伊里鉱山、自然銀は金生、日笠鉱山を、自然銅は帯江、吉岡、剣山、大笹鉱山を紹介している。
- ⑧ 自然金に山金があり、これは鉱山で採掘され火山性の地質のところに多く、金は石英や硫化鉱物などと共存している。山金が侵食されて川に流れたものが砂金である。鉱山採掘金のうち、微粒子ではなく比較的大粒で最初から金と言えるようなものは自然金と呼ばれる。金と銀は共存している、純粋の金は自然状態では存在しない。銀は少ないもので1~2%、多いもので10%以上含まれる。砂金のほうが銀の含有が少ない。

4 参考文献

- ① 『岡山文庫 92 岡山の鉱物』沼野忠之 昭和 55 年 日本文教出版
- ② 『岡山の地学』光野千春 昭和 57 年 山陽出版社
- ③ 『岡山県鉱業』昭和 35 年 岡山県商工部
- ④ 「鉱山開発、金・銀・銅・明礬等の試掘」『吉永町史 通史編Ⅲ』平成 8 年 吉永町
- ⑤ 「和気郡内の金属鉱山の昔と今」『和気郡史 通史編下巻Ⅱ』平成 14 年和気郡史刊行会
- ⑥ 「鉱産」『岡山県通史 下巻』
- ⑦ 『岡山の岩石 岡山文庫 212』野瀬重人 沼野忠之 2001 日本文教出版